

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.0)

1. 建物概要

建物名称	笹口小学校	
建設地	中央区	
用途地域	商業地域、防火地域	
建物用途	学校	
竣工年	2013年3月 予定	
敷地面積	11,289 m ²	
建築面積	3,425 m ²	
延床面積	6,671 m ²	
階数	地上4F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2011年4月25日	

2. CASBEE新潟の評価結果

 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{61}{35} = 1.7$
---	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア	値
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.2		バリアフリー	Q2.1.1.3	3
			維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	Q2.2.1	3
			信頼性	Q2.2.4	3
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1	3
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	LR2.1.1	3
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	5
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	3
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	4
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	4
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	5

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

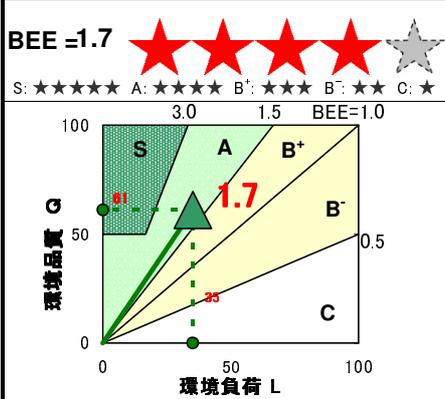
1. 将来の更新を考慮し、間仕切壁を乾式にしました。
2. 洪水を配慮して床高さと決めました。
3. ハイサイドライトや雨水タンクで自然エネルギーの利用をします。
4. 再生材やリサイクル材を多く使用するようにしました。
5. 透水性舗装や壁面緑化などを取り入れました。
6. 県産材を多く使用するように計画しました。

CASBEE[®]新潟

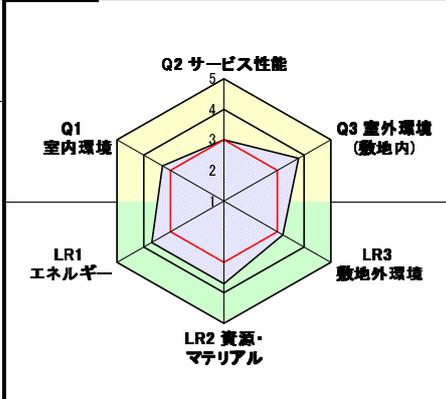
評価結果内

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル, CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.0)

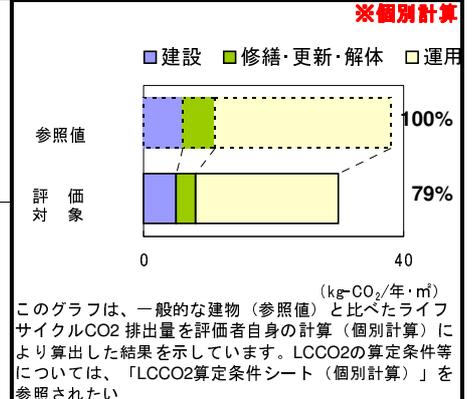
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



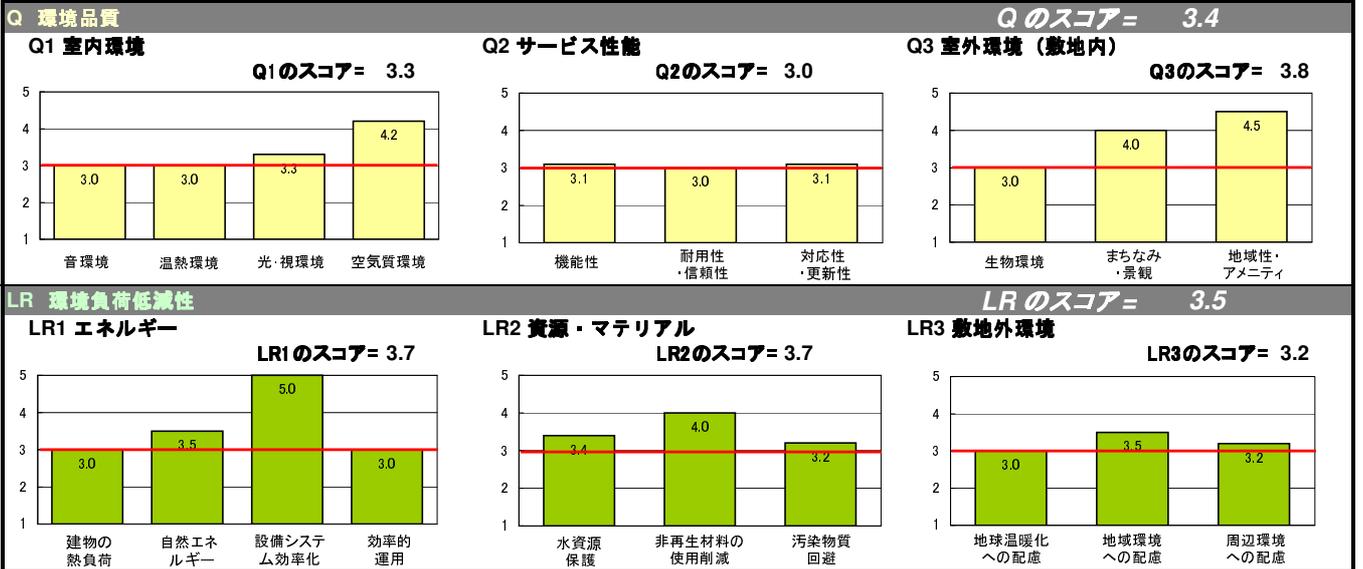
2-2 大項目の評価(レーダーチャート)



2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 市街地の中心に位置します。敷地周囲に樹木や並木や生垣で緑のバリアを創り、静かな学習空間を作り出そうと考えました。 建物を低層にし、敷地周囲をセットバックさせ、メンテナンスにも対応した配置計画としました。 		<ul style="list-style-type: none"> 既存建物の校章を再利用します。 既存校舎の昇降口がケヤキ通りの正面であった名残となるモニュメントを設置します。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 床や壁の仕上に木を積極的に使用した内装計画としています。 防音や吸音の機能と木の仕上げを組み合わせたデザインを計画しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所となるので、洪水に配慮した床高とし、キュービクルや受水槽を2階に設置しています。 将来の間仕切りの更新が可能となるよう、RCの壁を少なくしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物周囲に境界からの離隔をとり、積極的に植栽を行いました。 建物から直接外部に出て、自然と触れ合えるように計画しました。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 普通教室に日照調整バルコニーを設置しました。 雨水タンクを設置し、児童が雨水を散水利用する事を体験できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生木材や集成材などの利用をしています。 節水器具の採用をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 建物の北側を特に低層にし、近隣への日照に配慮しました。 音楽室外部に防音壁を設けるなど、楽器騒音が周囲に及ばないように配慮しました。 駐車や駐輪が近隣に迷惑とならないよう、スペースの控

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい